

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 商業 科目 ソフトウェア活用

教科： 商業 科目： ソフトウェア活用 単位数： 3 単位

対象学年組： 第 2 学年 A 組

使用教科書： （ ソフトウェア活用(実教出版) ）

教科 商業 の目標：

- 【知識・技術】 ソフトウェアについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるように
- 【思考・判断・表現】 ソフトウェアに関して、ビジネスシーンでの活用方法を想定できる力を養い、合理的な経営判断ができるよ
- 【主体的に学習に取り組む態度】 各種ソフトウェアについて自ら学び、課題以外の実習に主体的に取り組む態度を養う。

科目 ソフトウェア活用 の目標：

【知識・技術】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	企業活動とソフトウェア活用 ビジネスにおけるソフトウェアの活用	・身近な事例を基にビジネスにおけるソフトウェアの活用を考える学習活動により、ソフトウェアの意義と重要性を理解する。 ・社会で利用されている情報システムの例や、ビジネスにおけるソフトウェアの活用の実例を学ぶことにより、情報通信ビジネスにおけるソフトウェア活用の重要性を理解する。	【知識・技能】 ソフトウェアの意義と重要性について考え、理解することができたか。 情報通信システムの特徴や処理方式の概要を理解し、ソフトウェアの意義や役割を考え、具体的な利用例を理解することができたか。 【思考・判断・表現】 ネット通信ビジネスにおける情報通信システムに関心を持ち、各種決済システムなどの、ソフトウェアの意義や役割を考え、理解することができたか。 観光ビジネスとソフトウェアの活用、各種センサーとソフトウェアの関連などに関心を持ち、概要と目的を理解できたか。 ビジネスにおけるソフトウェアの役割を理解し、これを活用するための知識や技術を積極的に身に付けようとする態度を持ったか。	○	○		4
	情報通信ネットワークの活用 情報通信ネットワークの導入と運用	ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し、それを活用するコンピュータやプリンタをLANやインターネットに接続するための基礎的な方法や、情報通信ネットワークのシステム障害に対処するための基本的な技術を身に付ける。	【知識・技能】 ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し、コンピュータやプリンタを適切にLANやインターネットに接続するための基礎的な方法や、情報通信ネットワークのシステム障害に対処するための基本的な技術について理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の所有している端末の基本性能を調べてみる。	○	○	○	7
	定期考査						
	表計算ソフトウェアの活用 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析	表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な集計や分析方法、集計した情報から、分析結果を適切に表現する能力を身に付ける。	【知識・技能】 計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な方法で分析する能力を身に付けるとともに、分析結果を適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 発展課題に取り組む。	○	○	○	14
	表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ	表計算ソフトウェアを通して、オペレーションズ・リサーチの基礎を理解し、目的に応じて適切な手法を活用する技術を身に付ける。	【知識・技能】 表計算ソフトウェアを通して、オペレーションズ・リサーチの基礎について理解し、目的に応じて適切な手法を活用する技術を身に付けるとともに、適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 発展課題に取り組む。	○	○	○	10
定期考査				○	○		1
	データベースソフトウェアの活用 ビジネスとデータベース データベースの作成と操作	データベースの特徴や基本的な機能を理解する。 データベースソフトウェアを活用するための知識と技術について理解する。	【知識・技能】 データベースに関心を持ち、効果的な活用方法や役割などを説明できる思考が身に付いている。 データベースの演習に主体的な姿勢で取り組み、テーブル・クエリ・フォーム・レポート・リレーションシップの作成など、データベースソフトウェアの実践的活用のための知識と技術が身に付いている。	○	○		14
	手続きの自動化 データベースの構造 SQLの操作	フォームを用い、手続きを登録する方法を理解する。 データベースの構造を理解する。また、表を正規化するための手順を理解する。	【知識・技能】 ユーザーフォームにボタンを配置し、これまで作成したクエリやフォーム、レポートを呼び出すマクロに関する知識と技術が身に付いている。				

